

**国内最大の放送・映像制作機器の展示会
「2018年国際放送機器展（Inter BEE 2018）」に出展**

キヤノンは、2018年11月14日（水）から16日（金）まで、幕張メッセで開催される国内最大の放送・映像制作機器の展示会「（第54回）2018年国際放送機器展（以下、Inter BEE 2018）」に出展し、「映像表現に拡がりをも、創り手にチカラを。」をテーマに、新製品やキヤノンの最先端技術を紹介します。



キヤノンブース（イメージ図）

1. 4K/HDR^{※1}対応の高画質・高性能な映像制作機器およびソリューションを紹介

映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の最上位機種「EOS C700 FF」（2018年7月発売）、業務用4Kビデオカメラのフラッグシップモデル“XF705”（2018年11月下旬発売）などの入力機器から、業務用ディスプレイ「DP-V2421」（2018年4月発売）などの出力機器まで、映像制作のワークフローを強力にサポートする4K/HDR対応の高画質・高性能な幅広い製品群を体験できます。

また、超高輝度4Kプロジェクター「LX-4K3500Z」（2018年8月発売）による大画面投影、世界最小・最軽量^{※2}の4Kプロジェクターの新製品“4K6020Z”（2018年12月中旬発売）による高精細な表現力や高い色再現を紹介します。

2. 最先端の映像ソリューションを参考展示

ヤマハサウンドシステム株式会社（以下、YSS）と共同出展する特設ルームでは、8Kカメラ1台で撮影した映像を大画面に出力し、YSSのマルチチャンネル音響と合わせることで、まるでその場にいるかのような臨場感を体験できる「映像空間ソリューション」を参考展示します。

また、小型多目的モジュールカメラ「MM-100WS」や、8K/HDRに対応したカメラ、レンズ、ディスプレイなど、キヤノンが開発を進めている最先端の製品・技術を通して、新たな映像表現の可能性を提案します。

3. 映像制作現場における製品導入事例を紹介するセミナーを開催

映画やテレビ番組、プロモーションビデオなど、さまざまな映像制作現場で活躍するクリエイターやエンジニアが、キヤノン製品を活用した作品制作の舞台裏を語るセミナーを開催します。新製品“XF705”などの魅力や、CINEMA EOS SYSTEMの高い映像品質、映像制作ワークフローの効率化を通じて、どのように作品制作に貢献するかを紹介します。

※1 High Dynamic Range の略。映像の明部と暗部の輝度差（ダイナミックレンジ）を向上させる技術。

※2 レーザー光源を搭載したネイティブ4K解像度6000lm/5000lmクラスのプロジェクターのサイズ、質量において。サイズは突起物含まず。質量はレンズ含まず。2018年11月8日現在。（キヤノン調べ）

<Inter BEE 2018 開催概要>

会 期：2018年11月14日（水）～16日（金）

会 場：幕張メッセ

主 催：一般社団法人 電子情報技術産業協会

入場料：無料（全来場者登録入場制）

<参考情報：2017年実績>

出展者：1,139社・団体

来場者：38,083人

<主な展示製品>

■業務用デジタルビデオカメラ

- ・XF705
- ・XF405

■4K放送用レンズ

- ・UHD DIGISUPER 122
- ・CJ45e×9.7B
- ・CJ24e×7.5B

ほか

■CINEMA EOS SYSTEM

●デジタルシネマカメラ

- ・EOS C700 FF
- ・EOS C700
- ・EOS C300 Mark II
- ・EOS C200／EOS C200B

●EFシネマレンズ

- ・CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S
- ・CN-E20mm T1.5 L F
- ・CN-E14mm T3.1 L F

ほか

■ディスプレイ

- ・DP-V2421
- ・DP-V2411
- ・DP-V1711

■ミラーレスカメラ

- ・EOS R

■プロジェクター

- ・LX-4K3500Z
- ・4K6020Z

■ロボットカメラシステム

- ・BU-42H
- ・OP-450
- ・LCS-4000J

■多目的カメラ

- ・ME20F-SH

■その他

- ・8Kビデオカメラ／レンズ／ディスプレイ
- ・多目的モジュールカメラ（MM100-WS）
- ・映像空間ソリューション（YSS 共同出展）